

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

22

世代交代を意識して活動する

人脈と情報の価値

やすだ
安田

とよしげ
豊重

Team前向き・保護司
南里一町内会長

志免町生まれ。就職で東京へ行き、転勤で福岡へ戻る。退職後、すぐに志免町職員に採用された。地域の消防団に所属したのがボランティア活動の始まり。自発的な活動参加の最初は「志免町手話の会」。その後、子どもの小学校や高校のPTA会長を務め、人脈を活かしながら、楽しんで活動継続中。

現在の所属：エコネットしめ、保護司、南里一町内会長、Team前向き、2025年超高齢社会を考える会、NPO法人ウエルフェアだんだん 志免中学校 学校評議員など多数。



消防団への加入から ボランティア活動をスタート

志免町職員として働くようになってすぐに、消防団（地域防災を担う民間組織）に所属しました。15年の活動で分団長まで務めて引退しましたが、役場職員としては当たり前だと思って活動に参加していました。活動に興味を持って参加したのは「志免町手話の会」です。当時は税務課の窓口対応をしていたため、手話ができるようになった方が良くと感じ、会に所属し勉強していました。会の広報委員なども務め、運営側の活動もしていました。

40歳を迎えるころ、人の運氣には波があって、自分の場合は40歳をピークに下り坂になるという内容の本を読みました。下り坂をどうにかするには「人に尽くしなさい」と書いてあったので、自分の中では「ボランティア活動をしよう」と思う大きなきっかけになった節目の出来事でした。そこから、子どもの通っていた小学校や、高校でPTA会長を引き受けたり、町の総務課長として出前講座の講師に出向いた先で誘われて、メンバーになったりした事もあ

りました。活動の中で講師との日程調整役を引き受けていました。講師の方に直接お会いする機会も多く、保護司の安川さんを講師依頼で訪ねた際に「講師を引き受けるけど、あなたも保護司になって」と逆をお願いされたことがきっかけとなり、保護司を引き受けることになりました。活動を通じて知り合う方が増えると共に、参加するボランティア活動が増えていきました。今考えると、自分の運氣のためという下心もあったように思います。



住民主体する夏祭りを実現 Team前向きの活動について

志免町では婦人会主催から町内会長主催へと変わっていましたが、町役場職員が仕事として運営しているような夏祭りをずっと開催していました。

それがなくなってしまった時に、「夏祭りを住民主体でしよう」という呼びかけに集まった人たちで、「Team前向き」が2009年に設立されました。50～60代が中心になって集まりましたが、当時から世代交代を念頭に、活動がいずれ高齢化とともにしぼむことがないように、若い人に団体に関わって



▲町内会の活動も再開しています!!

もらうためにどうしたらいいかを考えていました。50代～70代にかけてずっと活動していますが、体力的には、やはりしんどくなってきました。若い人が参加し、続けやすいように「できる人が、できる事を、できる時にする」をモットーに、決して無理はせず活動しようと話しています。



楽しんで活動できていますか 「無理」していませんか

日頃から、自分の出向く先でボランティア活動の話をして「楽しいよ」とアプローチしています。団体の中での役割分担は、メンバーそれぞれの得意なことを活かしています。私自身も普段から人とのつながりを大事にして、それぞれの人の「得意」を活かせる活動を意識しています。Team前向きでは、人材がうまく機能しているのを感じます。

ボランティアの人材不足はよく言われますが、「人がいない」という人は、自分が無理をしていますか。「これがしたい、あれがしたい」と自分の度量を超えた活動をしようとする「私はこんなに活動をしている。だからあなたも手伝って!」と、結果的に相手にも無理をさせてしまうような活動になりませんか。自分のできる範囲の中で、楽しみながら活動できることが「ボランティア活動」です。次の世代に無理せず交代できる形で「楽しんで」継続していくことが大切です。



町内会の世代交代の工夫 子どもたちの思い出のために

町内会では会長を務め9年目になりました。役員は40代～50代を中心に活動できるように、会議の開催日を土日の夜19時30分からとして、子連れ参

加もOKにしました。働いている人が無理せず参加できる日を設定しています。また、町内会の配布物は、公民館にBOXを設置し、いつでも取りにいける仕組みにしました。これらは「○○だからできない」という人たちになぜ?と問いかけて、できない理由を取り除いてきた結果です。行事の後の打ち上げにお疲れ様会を開いて、参加者に話を聞くと、若い人も行事に参加して楽しいと感じていることがわかりました。できない理由を取り除けば、地域活動へ継続して参加できるようになり、そうすると世代交代しながら、活動していけると実感しています。

今年度は新たに小・中学生合同のバスハイクと、夏祭りに向けての太鼓の練習を実施します。これは、地域の小学生と一緒にバスハイクに行きたい、太鼓を教えたいという中学生からの企画で実施するものです。子どもたちの思い出になり、新たなつながりが生まれる町内会行事になりそうです。



ボランティア活動の意義とは 今後の活動について

今まで様々なボランティア活動に参加して、多くの人とつながりができました。自分の閉じたコミュニティの中にいたら、入ってこないような情報に触れるたび、何にもかえがたい貴重な財産だと感じます。家にこもらず、積極的に外に出て活動し、ボランティアで得られた人脈や情報を存分に活かし、無理なく楽しく「これだけのことをさせてもらっている」という気持ちで続けてきました。

これからは、少しずつ自分の活動を整理しつつ、若い人の考えを聞く耳をもって、世代交代していこうと思っています。また、実はまだ順番を待っている活動もいくつかあるので、それらを引き受けて役目を果たそうと考えています。



取材を終えて

多くの活動を通じて得られた情報を次の活動に活かしながら、楽しんで活動しているお話を聞いて、自発的な活動だからこそ続けられるボランティアの基本を再認識しました。世代交代を常に意識し、実践されている貴重なお話を聞くことができました。

